

科目名：多職種連携教育		必	1 単位 (45 時間)
(Interprofessional Education)			
履修年次/時期：3 年次 通年		授業形態：講義・演習	
主担当教員：中村仁志（20 年以上の臨床での実務経験や、医療観察法病棟実務、2 病棟の立ち上げなどからの多職種における運用やコミュニケーションの重要性などについて実践的に学べるように進めていく。本学の特徴でもある歯学部、歯科衛生学科との協働による学びを深める授業を実践していく。）			
担当教員：石川徳子 飯塚雅子 久保貴巳子			
学修目的	多職種連携・協働の視点から、保健医療専門職業人として普遍的な知識および考え方・態度について理解し修得するとともに、関係職種間の連携および協働により地域社会の人々の保健・医療・福祉に貢献できるような態度を身につける。 CP1. 5. 6 に関連する。 科目 No. KNz-401		
この科目が目的としている DP	1. 医療専門職としての倫理観を有する。	(1) 生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。	○
		(2) 医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。	○
	2. 医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。	(1) 教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。	○
		(2) 専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。	○
		(3) 社会の動向に関心を持ち、学び続ける力を有する。	○
	3. 健康支援を通し、全身の健康を守る看護実践能力を有する。	(1) 多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。	○
		(2) 優しさに溢れる看護専門職として地域社会に貢献する能力を有する。	○
		(3) 看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。	◎
◎：この講義・演習・実習と最も関連がある DP ○：この講義・演習・実習と関連がある DP			
到達目標	1. 多職種連携の定義を述べるができる。 2. 多職種連携に参加する職種を挙げ、その役割を述べるができる。 3. 各専門職の枠を超え、保健医療専門職業人としての共通かつ必須な基本的知識・技術・態度について述べるができる。 4. 提示された事例について、生活する当事者の視点で検討できる。 5. 提示された事例について、多職種連携の視点で、医療、福祉、地域の側面から分析し、考察できる。 6. 多職種連携に影響する要因および課題を列挙できる。		
授業概要	対象の心身の安寧や生活の質を保証していくために不可欠となるチームアプローチについて多職種連携の視点で学習する。多職種同士が互いの存在や役割を尊重し合いながら専門性を発揮することの意義を学ぶ。		
評価方法	振り返りシート 10 点×6 (60 点) 課題レポート 40 点 評価に対するフィードバックは掲示にて行う。		
予習・復習時間	【予習】0.5h 【復習】0.5h		
教科書	配布資料		
参考書	実戦 多職種連携教育 監修 寺崎文生 赤澤千春 編集 駒澤伸泰 中外医学社		
オフィスアワー	中村仁志 9：00～17：00 3 号館 3 階研究室 h.nakamura@kdu.ac.jp 不在時はメールで対応		

連絡先	川徳子 15:00～17:00 3 号館 3 階研究室 ishikawa.tokuko@kdu.ac.jp 不在時はメールで対応 飯塚雅子 15:00～17:00 3 号館 3 階研究室 iizuka.masakoi@kdu.ac.jp 不在時はメールで対応 久保貴巳子 15:00～17:00 3 号館 3 階研究室 k.kubo@kdu.ac.jp 不在時はメールで対応
-----	---

実施回	授業計画	予習・復習・キーワード	担当
1 (/) 限	オリエンテーション 科目の意義と進め方 保健医療チームの定義とその歴史 地域や福祉を含めた多職種連携における看護の機能 医療の中の多職種連携、医療チームについて知ることが出来る。 領域実習中に医療チームの活動を意識して学ぶ。	【予習】保健医療チームについて調べてくる。 【復習】多職種連携の意味と、臨地実習の中での活動を考える。 【キーワード】社会的ニード、多職種連携、看護師の業務・役割、ICT、NST、緩和ケアチーム	講義 ○中村
2 (/) 限	多職種連携と地域・施設・医療の中の多職種連携教育 多職種連携のための情報発信・情報交換の極意 DVD 視聴 (1)	【予習】地域医療に関連した職種を調べてくる。 【復習】地域包括システムに関連した制度、サービス、職種を再確認する。 【キーワード】医療専門職、病院・地域連携、地域医療連携センター、かかりつけ医、地域包括システム、ケアマネジャー、訪問看護ステーション	講義 ○中村
3 (/) 限	多職種連携のための情報発信・情報交換の極意 DVD 視聴 (2) チーム医療および地域包括システムにおける連携、協働に必要なコミュニケーションの特性	【予習】多職種間の連携における、課題を考えてくる。 【復習】多職種間のコミュニケーションに必要な能力を既修の科目から選択しておく。 【キーワード】共感、傾聴、相互理解、多職種連携教育、家族支援	講義 演習 ○中村
4 (/) 限	施設系サービスの口腔管理サービスと多職種連携	【予習】高齢者施設におけるオーラルケアの必要性を考えてくる。 【復習】生活の場としての施設における口腔管理の実際を確認する。 【キーワード】特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護保険施設	講義 ○外部講師 施設 歯科衛生士
5 (/) 限	歯科医療における言語聴覚士の多職種連携の実際	【予習】言語聴覚士 (ST) の業務・役割を調べてくる。 【復習】言語聴覚士が活動の中で行っているケアや配慮を確認する。 【キーワード】言語聴覚士 (Speech Therapist)、嚥下訓練	講義 ○外部講師 言語聴覚士
6 (/) 限	歯科医療における栄養士、薬剤師の多職種連携の実際 附属病院における特殊性の中での、栄養士と薬剤師の役割	【予習】歯科医療における栄養、薬剤の影響を考えてくる。 【復習】附属病院における栄養士・薬剤師の業務と配慮している点を再確認	講義 ○外部講師 附属病院

		認する。 【キーワード】治療食、嚥下職、食事形態、服薬管理、薬剤形状	栄養士 薬剤師
7 (/) 限	オーラルケアにおける歯科医療と多職種連携	【予習】オーラルケアとは何かを調べてくる。 【復習】オーラルケアの必要性とメカニズムを再確認する。 【キーワード】唾液と感染、口腔管理、トータルオーラルケア、腸-唾液腺相関	講義 ○外部講師 歯科医師
8 (/) 限	歯科衛生士と多職種連携教育 附属病院高齢者歯科の訪問歯科衛生士による連携の実例	【予習】歯科衛生士の業務と役割を調べてくる。 【復習】歯科医院以外での歯科衛生士の活動における業務と配慮しているケアなどを再確認する。 【キーワード】訪問歯科衛生士訪問ケア、歯科衛生士単独訪問、在宅でのオーラルケア	講義 ○外部講師 附属病院 高齢者歯科訪問歯科衛生士
9 (/) 限	事例による口腔ケア活動の多職種連携を学ぶ（１） 多職種連携のための情報発信・情報交換の極意 DVD 視聴（３）	【予習】訪問歯科衛生士の業務と役割を調べてくる。 【復習】多職種間による情報交換の際の留意事項をまとめる。 【キーワード】オーラルサポート、食支援、IPW（多職種連携）、IPE（多職種連携教育、	講義 ○中村
10 (/) 限	事例による口腔ケア活動の多職種連携を学ぶ（２） 訪問歯科衛生士 単独訪問の実例 多職種連携編 DVD 視聴（４）	【予習】訪問歯科衛生士の業務と役割を調べてくる。 【復習】多職種間による情報交換の際の留意事項をまとめる。 【キーワード】オーラルサポート、食支援、IPW（多職種連携）、IPE（多職種連携教育、	講義 演習 ○中村
11 (/) 限	事例による口腔ケア活動の多職種連携を学ぶ（３） グループワーク	【予習】歯科衛生士を中心とした多職種連携の中での看護師の活動や役割を考えてくる。 【復習】在学中に学んだ科目や実習から、多職種連携のために利用や応用が出来ることはなんであったかをまとめる。 【キーワード】コミュニケーション、	演習 担当教員

		相互理解、病態と治療論	
12 (/) 限	事例による口腔ケア活動の多職種連携を学ぶ(4) 発表準備	【予習】11 回目でのグループワークをふまえ、事例の中で看護師とどのような対応が必要かを考える。 【復習】グループワークの内容を発表できるようまとめ、資料を準備する。 【キーワード】多職種連携教育、情報共有、共感的理解	演習 担当教員
13 (/) 限 14 (/) 限	学びの発表会	【予習】発表内容の共有と、準備をしてくる。 【復習】各グループの発表を聞き、自己における学びや、課題を再確認しレポートにまとめることが出来る。 【キーワード】学びの共有、他職種の理解	演習 担当教員
15 (/) 限	まとめ	【予習】最終レポートを準備してくる。 【復習】多職種連携の中で、他職種を知ることの重要性とその方法について考えることが出来る。 【キーワード】多職種間のコミュニケーションと情報共有	講義 演習 ○中村